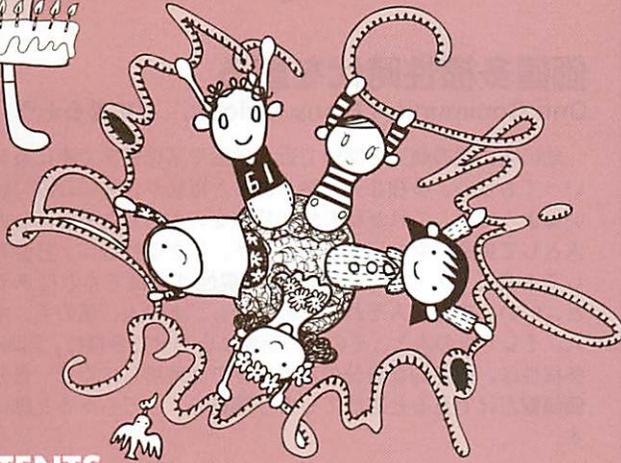


Ohmi net

No. 60
 9・10・11月号

おうみネット

●発行日/2007年9月1日
 ●発行所/(財)淡海文化振興財団



CONTENTS

特集●淡海とぴっくす 2
 これからの市民活動を考える… **パート2**

市民活動

課題を探る

～10周年記念フォーラムを開催して

■元気NPO探し隊 7 8

- 特定非営利活動法人しが盲ろう者の会
- 湖族の郷実行委員会 ●CLOVER(クローバー)

■孫の手ナビ 9 10

- 【そこが知りたい!NPO運営術 VOL.8】
- 【Sekenよし!】株式会社平和堂

■支える・つなぐ・結ぶ 情報BOX 12

■Ohmi net INFORMATION 9月・10月・11月 13 14

この日なんの日?

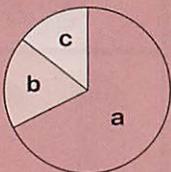
9月	1 防災の日 土	2 日
8 土	9 救急の日 日	10 下水道の日 月
16 日	17 敬老の日 月	18 火
24 月	25 振替休日 清掃の日 月	26 水
1 土	2 法の日 土地の日 びわ湖水源のりの日 月	3 登山の日 水
9 火	10 世界郵便デー 目の愛護デー 水	11 木
17 水	18 統計の日 木	19 女性大臣の日 金
25 木	26 読書の日 金	27 土
1 木	2 点字記念日 金	3 文化の日 土
9 金	10 119番の日 肢体不自由児愛護の日 土	11 日
17 土	18 土木の日 日	19 月
25 日	26 更生保護記念日 月	27 火

「市民活動に参加するならその動機は？」

●巻頭アンケート結果

Q1

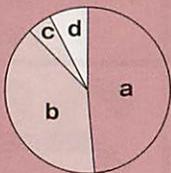
この10年で
市民活動やNPOの活動は
広がったと思う？



- a. はい…67.6%
- b. いいえ…18.0%
- c. わからない…14.4%

Q2

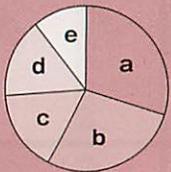
10年を振り返って
活発になったと
感じるのは？



- a. NPO…46.0%
- b. ボランティア…36.9%
- c. PTA…5.4%
- d. 自治会…4.5%
- e. その他…7.2%

Q3

あなたが市民活動に
参加するなら、
その動機は？



- a. 社会をよくする…29.8%
- b. 自分のため…27.9%
- c. 仲間作り…16.2%
- d. 人を助ける…15.3%
- e. その他…10.8%

アンケート：携帯情報メール発信会社「J2メール」協力
回答者 総数111名 男性42名 女性48名 不明21名
10代…0名 20～30歳…24名 31～40歳…45名
41～50歳…23名 51歳以上…6名 不明…13名

【12・1・2月号のアンケート】
次回12・1・2月号は「市民活動」をテーマにした巻頭アンケートを実施します。読者の皆さんもぜひ、アンケートにご協力ください。詳しくはP.13をご覧ください。

V・O・I・C・E



価値多様性時代を創る

One Community, Many Voices, 共に暮らそう

幼い頃、親の商売の関係で近江学園や落穂寮まで車に乗せていってもらい、多様な人と触れあった経験が、体にしみついているようです。これが私のNPO原点なのかもしれません。人が人として普通に幸せに生きることが、できる社会に。社会を少しでも良くしたいという想いの具現性は多様であればあるほど、いい。また、人それぞれの役割も、土の人、風の人、水の人、そして火の人と、その人の特性に合わせて多様に。同時に、多様性は、固定的な自分の見方だけでは理解しにくく、自分の価値観だけで見ると逃げてしまう陽炎のようでもあると思います。

★しなやかな全体性

1987年11月8日、琵琶湖の周り240キロを取り巻く人の数、20数万人。参加者が1000円出し合って集まった想いの結集。今年、「抱きしめてBIWAKO」(※)の20周年。6月24日開催した淡海ネットワークセンター設立10周年記念フォーラムの分科会でも、「抱きしめてBIWAKO」をきっかけに市民が安心して暮らせるための参加型福祉サービスを始められた事例発表がありました。歴史が大きくジャンプする時があります。「抱きしめてBIWAKO」体験は、まさに歴史をジャンプさせるきっかけだったのですね。

それから20年がたち、市民活動が再び大きくシフトする段階にきているのではないのでしょうか。NPOも地域の一員として多様な主体との協働を通じたネクストステージへと移る幕開けの時。記念フォーラムまとめのセッションでも、「10年たつてNPOが掲げてきたミッションをもう一回社会変化に照らし合わせ、あるいは新しい事業にチャレンジするというカタチでミッションそのものも見直す時期がどうも来ている」という意見がありました。自分たちの活動の型を創ると同時に、価値多様性を紡ぎだす「しなやかさ」で社会変化に対応するバランス感覚も必要ですね。

価値多様性を受け入れられる「愛と寛容」、「全体性」は、私の座右の銘となっています。

※抱きしめてBIWAKO：重症心身障害児施設移転費用の一部を捻出するため、1人1,000円を持ち寄りびわ湖の周囲を20数万人の人が手をつないだイベント(1987年)

淡海ネットワークセンター事務局長 浅野 令子

これからの市民活動を考える

パート2

市民活動

課題を探る～10周年記念フォーラムを開催して

阪神淡路大震災時のボランティア・NPOの活躍や特定非営利活動促進法の制定をきっかけに、NPOの社会的認知はこの10年で大きく高まり、市民活動の裾野は広がってきました。では、次の10年に進むため、今振り返り考えるべきことは何か、次のステップに移るために大切なことは何なのでしょう。

今号では、去る6月24日（日）に開催した淡海ネットワークセンター設立10周年記念フォーラムから、そして、活動を続けてこられた市民活動団体の声から、課題と今後の展望を探ってきたいと思います。



基調講演

「地域と市民が織りなすこれからの市民社会」

川北秀人さん（IHIOE 人と組織と地球のための国際研究所代表）

市民活動は、社会や地域を良くしたいと思っただけで始まります。その思いを叶えるには、団体は、地域を動かしたり、育てたり、変えたり、巻き込んだりというチカラを継続的にもつことが必要です。そのためにはどうすればよいのか。今回は「これまでからこれからをどう組み立てていくか」をお話したいと思います。

■これまでとこれからの社会

まず、これまでを確認しましょう。表1のような変化がありました。全国のNPO法人数は三万を超え、協働が本格化



川北 秀人（かわきた ひでと）さん

IHIOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表。1987年に京都大学卒業後、(株)リクルートに入社。国際採用、広報、営業支援などを担当し、91年に退職。国際青年交流NGO「オペレーション・ローリー・ジャパン」の代表や国会議員の政策担当秘書などを務め、94年にIHIOE設立。NPOや社会責任志向の企業のマネジメント、環境・社会コミュニケーションの推進を支援している。

(表1)

●これまでの15年（1992年～2006年）

- ◇様々な主体（官・業vs民）の対立から協働への変化。
- ◇インターネットの普及により、コミュニケーションが早く安く。
- ◇阪神・淡路大震災により、ボランティアの存在感が認知された。
- ◇NPO法の制定・施行。
- ◇行政・企業とNPOとの協働の本格化。
- ◇介護保険や自立支援法の制定・施行。
- ◇構造改革特区、指定管理者制度など、規制や官の独占が緩む。

厳しい時代がきます。冗談ではなく行政にお金がないことはよく分かっていただけでしょう。行政依存型の市民活動団体の今後を見据えた準備が必要であり、会費・寄付・事業収入といった自主財源

し、企業や行政と連携することが当たり前になってきました。また、介護保険など市民が先行して仕組みづくりしてきたものが制度化されたり、NPOが契約の主体になってきたことは大きな変化といえます。先ほど、法人数のお話をしましたが、月次法人申請数は二〇〇五年から二〇〇六年にかけてピークを過ぎています。NPO法も十年目を迎え、真価が問われる時期に入っています。

これからの社会はどうなっていくのでしょうか。表2をみてみてください。かなり

率を高める努力が求められます。また、ISO26000（組織の社会的責任に関する国際ガイドンス規格）が二〇〇九年に発効します。CSR（企業の社会的責任）のC（企業）がとれ、企業に限らず社会の一員である全ての組織（NPOも病院も大学も労働組合も行政も）の社会的責任（ISSR）に関するガイドラインができます。NPOも自分たちの責任をどう果たしていくか、について説明できないといけない時代がやってきます。

■NPOが地域の担い手になるために

では、こうした社会情勢を全て織り込んだ上で、皆さんはこれからの地域をどうつくっていくのか。

まず、ボランティアやNPOが、地域の担い手になりきれしていない理由。この



問題から考えましょう。まだまだ実績が少ないこと。そして、継続して運営する力が不足していることだと思います。やりっぱなし、言いつばなしで、終わっている団体もあります。中にはそもそも継続する意志がなく、自分たちのやりたいこと、関心のあることだけをやっている団体もあります。「できることを、できる人が、できるだけやりましょう」では、約束にはならず信頼はされません。大事な事だと思ってもらえても、パートナーにはなれない。

私たちは地域を良くするために、この地域が未来の世代にわたって引き継がれていくように、この地域をどうしたいのかの展望を描き、地域のニーズに応える。自分たちがこうしたいから、ではなく、地域で求められているニーズに基づいて活動していることが重要です。

■これからの市民活動を展望する

では、NPOが地域に信頼され、地域のニーズに応え続けるために、どうすればいいのか。結局は、事業としてやり続けることだと思っています。「やりたいときにやりたいことをやりたいだけ」ではなく、しくみや品質に責任を持って事業として続けていくことで、次の担い手も育てていく。最近、コミュニティ・ビジネスや社会事業家といった市民事業に

注目が高まってきているのはそのためです（全国事例・表3）。NPOにとっても、経済は非常に重要なテーマだと確認しておくと、課題は深く必要がありま。地域の経済の力が衰えていくと、課題は深刻化します。NPOが事業性を高めることは、社会的に意義のあるお金の流れをつくることでもあるのです。

もう一つ重要なのは、地域との連携です。「どうしても自分たちだけでやる」という気持ちの強い団体が、増えている感じがします。せっかく地域に根ざした団体なんだから、地域を巻き込んで連携すれば、もっと地域ぐるみで応援してもらえます。地域のための活動だからこそ、地域の他の団体と積極的に連携して、一緒に何かやっていただきたい。

最後に、行政との協働について。これからは協働は広がっていくと思います。勘違いしてはいけないのは、官から民に仕事を下げ渡すことが協働ではなく、互いに今まで以上の効果が出る、1+1=



(表2)

●これからの15年(2007年~2020年)

- ◇日本はGDPで何位?(他国に抜かれる)
- ◇極少子・極高齢社会へ→20年に高齢者率30%
- ◇首都圏・東海圏へ人口集中
- ◇団塊世代の一斉退職→退職金は払えるのか?(消費に回ればいいが…)さらに介護や年金の対象に。
- ◇安易な民間委託→質とスピードを上げる前にコストを下げる?
- ◇本当に大変なのは、2008年!
 - ・「緊急経済対策」で増発した国債の償還期限!
 - ・過去の膨大なハード整備の補修期!
 - ・新・非営利法人制度が施行!
 - ・介護保険法、自立支援法など見直し→実質的には単価削減!
 - ・指定管理者制度が第2ラウンドへ
 - ・求人倍率は、相変わらず高い→介護系、国際協力系は空前の人材難
 - ・大学全入→グローバル企業は海外採用を拡充
- ◇恐らく消費税3%増。2009年?
- ◇ISO26000シリーズ発効→CSR(企業の社会的責任)からSR(すべての組織の社会的責任)へ
- ◇2010年には、社会保障制度全体見直し→特に年金、高齢者医療費など

(表3)

●コミュニティ・ビジネスの全国の事例

~地域の資源を活かした事例~

- ◇自然体験活動
 - ・NPO法人ねおす(北海道) <http://www.neos.gr.jp/>
- ◇フィルム・コミッション
 - ・NPO法人アジア・フィルム・ネットワーク(愛媛県松山市) <http://www.asiafilm.info/>

~障がい者の力を活かした事例~

- ◇ココ・ファーム・ワイナリー(栃木県足利市)
 - 30度以上の斜面にブドウ畑を作り、沖縄サミットのオープニングを飾るスパークリング・ワインになった
 - <http://www.cocowine.com/>
- ◇スワンベーカリー(東京を中心に30店舗以上)
 - パン生地をチルド輸送し、各店舗で発売
 - <http://www.swanbakery.jp/>

~地域の課題に挑むNPO~

- ◇NPO法人不忘アザレア(宮城県白石市)
 - ミセクからスキー場を継承し、黒字は市に寄付
 - <http://www.wagamachigenki.jp/genki/report/040903-01.htm>
- ◇NPO法人エコビジョン沖縄(沖縄リサイクル運動市民の会)
 - スーパーの生ゴミを豚の飼料に
 - <http://www.ryucom.ne.jp/users/kuru2/>

~地域を活性化させた事例~

- ◇YOSAKOIソラン祭(北海道札幌市)
 - 「不法行為」からスタートしたが、今ではオフシーズンに150万人の祭りに
 - <http://www.yosanet.com/yosakoi/>
- ◇オンパク(大分県別府市)
 - 個人の趣味や一芸を地域共有のコンテンツに。他の地域にもASPとして提供。(函館など)
 - <https://www.onpaku.jp/com/>

~地域の企業とのパートナーシップ~

- ◇バック連参加団体による紙の循環
 - 集めるだけでなく、使うリサイクル: Rマーク。
 - (全国バック連: <http://www.packren.org/>)

~実はこれもコミュニティ・ビジネス~

- ◇生活協同組合、有機農業運動団体
 - グリーンコープ(<http://www.greencoop.or.jp/>)は産地見学を年間350回以上!
 - 生活クラブ(<http://www.seikatsclub.coop/>)は「国連設立50周年記念賞」受賞!(創業は「安全な牛乳を飲ませたい」と願った母親たち)
 - 90年には100万世帯が加入→3000億円市場
- ◇介護保険制度を生み出した、たすけあい運動
 - 78年にボランティアで24時間・365日の介護を、93年に「介護作業の170分類」を実現し、保険制度のモデルとなった「ケア・センターやわらぎ」
- ◇フリーマーケット、リサイクル・ショップ
 - 家庭の不用品を「社会の資源」として循環



2以上のことがちゃんと期待できるかどうか大きなポイントです。協働とは、互いの強みを活かすことだからです。行政は、協働の定義(協働とは何か)や基本戦略(どう進めるか)、展望(社会はどう変わるか)やスキル(協働を進

めるチカラ)を持ったうえで協働することが不可欠です。コスト削減を目的にすると、重大な事故を起こし、責任を問われるのは行政であることを忘れてはなりません。NPOはネットワークを強め、互いの

ノウハウを共有し、知恵を活かし合ってください。また、地域を本気で変えていこうと思ったら、制度や仕組みが変わらないといけない部分があります。NPOにはその働きかけも求められます。

今日は、日常よりちょっと長い視点で考えることを狙いにお話しさせていただきますました。過去や未来の視点を持つと、「大変だな」と感じることも多いのですが、「だからこそ活動する価値があるんだ!」と想っていたみたいです。忙しくなると現場にばかり視野をとられがちですが、そうではなく、視野を広げ、目線を上げて日常の活動を行っていたら、きつかけになれば幸いです。ありがとうございます。

●分科会報告●

◆第1分科会

地域自治、多様な主体が共に創る地域社会

「多様な主体との連携（協働）」は
新しい地域自治のキーワード！



NPOが社会的ミッションを達成していくためには、個々でできることは限りがあります。そのことを理解し、様々な主体と連携して互いの強みを活かすことで、課題を解決していく「協働」のあり方が今後の地域運営に大変重要であり、これから

らは協働の質が問われてくるとの議論がなされました。協働の相手方は行政だけでなく、企業や大学、資金提供機関、他のNPOなど多様な主体を巻き込むことで、社会を変える大きな力になるということ、また、そのノウハウも自分たちだけにとどめておくのではなく、全国に広げていく視点が大切であることなどが発表されました。

◆第2分科会

組織経営、次の十年を創る組織経営を学ぶ

お金がないこと以前に、人を育て、活かすことが組織にとって大切な視点

組織のこれからを考える上で、「人材」と「資金」という二つの大きな課題があると思います。しかし、お金はなくとも人がいればできたり、お金があっても人がいないとでき



なかつたりすることも。活動の原点である、人を育てる・活かすことが、組織にとって最も重要だと話されました。その上で、人事の基礎となる五つの業務の説明と、現在と二年後の組織図を描くワークショップが行われました。組織図には「誰が何をどんな人とやっているか」といった、事業計画、予算書には現れない人の関わりから全体が映し出されるとのこと。二年後の組織図は組織をどう育てていくのかを描く作業になりました。

◆第3分科会

社会変革、NPOは人々の意識や社会を変える力になっているか？

当事者性を強みにアクションをおこし続けること。それが社会を変えていくのでしょうか

事業型NPOは「大変だからやめた」という甘えが持てず継続していく苦勞があり、事業をやる中でスタッフ間でミッションの共有が難しくなっていることが課題であると発表されました。これからの社会は、専門家や行政に任せるのではなく、市民が参加し、市民が当事者になって問題を考えていかなければいけない時代に入ってきて



おり、小さなことを積み重ねることで、また、変わったことを始めることで、不可能なことでもやれば自分の身の回りから社会は変わっていくといった意見がありました。十年前に比べればNPOは社会に認められ、良くなってきています。しかし、NPOが社会を変える力になるために、これからもっと努力していかなければと感じたセッションではなかつたかと思えます。

◆第4分科会

市民活動、はじめの一步、次の一步

市民活動とは？といった市民活動のポイントをおさえた基礎講座が開催されました

講義後には講師・アシスタント・参加者で意見が交換され、互いの悩みの解決策を考えたり、方向性を話し合ったりしました。



十周年記念フォーラムはこれからの見据える上で大変刺激的で有意義な機会となりました。ミッションを達成していくために、これからの市民活動の方向性として大きく二つのキーワードが浮かび上がってきたように思います。一つは、行政のほか多様な主体との連携（協働）。もう一つは、市民事業。次号はこのキーワードから、これからの市民活動を考えていきたいと思います。



特定非営利活動法人 おろみNPO政策ネットワーク

NPO等の市民活動団体を多様な形態でつないでいます。「ヒト」や「事業」をつなぐだけでなく、市民が市民活動や地域活動にアプローチするプログラムにもシフトしてきています。裾野を広げる活動なので、たくさんの市民の方々の思いと意気込みを感じます。多様な中間支援のカタチの模索する日々…。

どのNPOも、活動を通して市民に「学び」を提供します。「学び」は行動し自ら気づいてこそ「学び」となります。「感性での学び・知に支えられた学び・共同での学び」の3つを軸に、市民力・地域力・NPO力を高めるプラットフォームとして、コーディネート機能を提供し続けたいと思います。



特定非営利活動法人 西大津駅周辺防犯推進協議会

西大津地域の治安の安定のため、毎月2回の定期夜間巡回活動を行なっています。毎回の活動員数は20名前後、駅周辺の8つの各自治会から自主的に集まった30代から60代のメンバーが、自分の街の生活環境を守るために活動しています。

防犯の活動というのは、やればやるほど治安は安定します。治安が安定すると「もう大丈夫」と思ってしまうがちですが、手を緩めるとあっという間に悪化していきますので、息の長い活動が出来るように、無理をせず出来る範囲での活動を維持しています。

これから先の目標は、専属員が常駐し、防犯活動に関心のある人が気軽に立寄れる拠点を駅前に作りたい。そこから活動の輪が広がればと思っています。



特定非営利活動法人 戦争体験を語り合う会

戦後60有余年の歳月が経ち、風化のきざしがみえます。「次の世代に二度と我々が味わった苦しみを体験させてはならない」を合い言葉に、戦争体験を語り合い、語り継ぐことにより平和な社会づくりに貢献できればと1998年2月にわずか10数名で立ち上がりました。



当会の呼びかけ人で会長の川村泰子さん(当時77才)は2004年に急逝されました。私どもはその遺志を引き継ぎ、会員が協力しあって、今や会員数は50名を越えました。法人格も得て、毎月1回休まず開催している例会も110回を数えるようになり、初期の目的を達成しつつあります。当会の今後の課題は体験を正しく語り継げる「語りべ」の確保です。これからも社会に寄与するため、皆さまに当会の活用をお願いして、初期の目的を達成すべく努力いたします。

市民活動にかかわる みなさんに聞きました!

「活動内容」「団体の思いはカタチになってきましたか?」「これからの団体の元気のミナモトは?」について、自由に語っていただきました。

たかしま災害支援 ボランティアネットワーク「なます」



テーマは「備えと構え」。突然の災害時、一人一人が命を守るための「備え」の必要性と緊急性を訴える。阪神・淡路大震災やその後の災害時の教訓を「明日は我が身」に生かすことを推進する活動を展開中。「なます」結成から6年半で作った漫画、クイズ、紙芝居など17項目のプログラムから構成する防災出前講座が定着してきた。対象も地域から各種団体、企業、学校関係へと広がり、わずかさず関心が高まってきたと受け止めている。災害に「いつ」という期限はないので、気持ちの継続が難しいと感じる。メンバーのチームワークと行動力が、楽しく真剣に取り組む活力となっている。それに加え、何と言っても「なます」の元気の源は、自己満足という自己評価にある。

特定非営利活動法人NPOぼぼハウス

平成11年に「生きていてよかったといえる街づくり」をテーマに始めたNPOぼぼハウスは、介護保険の事業所として支援事業や居宅サービス事業に参入すると共に、子育て支援にも力を入れ「ぼぼクラブ」等地域で必要とされる存在となった。13年には法人格を取得し、15年には支援費制度で指定居宅支援事業所となり16年度より「あったかファミリーステーション」を開始し、高齢者も幼児も障がい児も共に過ごせる空間を創ってきた。また昨年からは指定管理者として彦根市北老人福祉センターを管理・運営してきている。20人弱の主婦が中心で立ち上げた会が「今必要と思われる事から」に取り組んできた結果、会員も80名を数える組織へと育ってきた。今後もミッションを大切に活動を続けたい。



特定非営利活動法人 びいめ〜る企画室

活動をはじめ10年。センターとはちょうど同い年です。「滋賀に住む女性が自分らしく一歩を踏み出すための情報を提供する」という活動理念の元、情報紙の発行を中心に、WEB、マスメディア、出版、イベント、セミナー、コミュニティカフェ運営などに取り組んできましたが、センターには色々な側面で本当にお



世話になりました。センターでの印刷作業の時におんぶされていた赤ちゃんはもう小4に。(もちろん自分たちも歳をとりました(笑)メンバーの高齢化が今後の課題かな)とにかく必死で走ってくる中で、有形・無形、様々なものがカタチになってきたと思います。また今後10年に向けて、他の誰も行ったことのないもっと遠くまで走って行きたいな…と思いを強くしているところです。

★このコーナーは次号も引き続きお届けします!

元気探し隊

GENKI SAGASHITAI

NPO

10月10日「目の愛護デー」
福祉

特定非営利活動法人
しが盲ろう者友の会

盲ろう者の心の支えに。
なくてははならない支援の輪

しが盲ろう者友の会は、視覚と聴覚に重複して障がいのある方(盲ろう者)が、その家族や支援者と共に交流の輪を広げ、盲ろう者の福祉の向上、自立と社会参加をめざすことを目的に、二〇〇一年に設立されました。

設立当時は、盲ろう者に対する福祉施策も不十分で、コミュニケーションツールである触手話や手書き文字、点字などのできる支援者も少ない状況でした。盲ろう者の人々は、盲とろうの重複障がいのため、家族間でのコミュニケーションさえも難しく、外出もままならず、孤立しがちな生活を送っていました。そこで、行政や



●触手話でコミュニケーションをはかる風景

11月3日「文化の日」
まちづくり

湖族の郷実行委員会

地域とともに歩み続けて19年。
堅田を愛する気持ちが原動力

中世、琵琶湖の水運の拠点として湖族の自治都市として発展した町——堅田。そこは蓮如上人や一休さん、松尾芭蕉など文学人の往来した所でもありました。

でもそんな歴史深い町も戦後の高度成長期を終えた頃には、駅ができたこととあり、町の中心地が大きく移動してしまい、昔からの往来はただ「住むだけ」の場所になってしまいました。そこでここに生きる自分たちで、町と人のつながりを見つめなおし、歴史を掘り起こしながら新しい堅田をつくりたいという思いが生まれました。「湖族の郷」はそんな住民らで構成されるまちづくり運動



●毎年9月に琵琶湖畔の特設ステージで開催されるいざよいコンサートの風景。

●事務局長の北村専次さん



11月20日「世界子どもの日」
教育

CLOVER(クローバー)

子どものために何かしたい！
世代を超えた活動を続けています

高校生から二十代前半までのメンバーが、虎姫町の子どもを対象にキャンプや文化祭を企画、運営しています。発足のきっかけは、設立当時のメンバーが「子どものために何かできることはないかな？」と友達に呼びかけたことでした。催しが近づく、毎日のように集まって企画を練り上げます。恒例のサマーキャンプは、募集定員を越えて抽選になる程の人気があるそうです。設立当初は、大人たちも企画、運営に関わっていましたが、だんだんとクローバーのメンバーが主体的に行うようになり、現在は時々アドバイザーをするなどの見守り役になっているそうです。

活動を続けるうちに、小学生の



●メンバーが文化祭で司会する様子。

イキイキとした暮らしや、地域の魅力を創るために、ボランティアや市民活動を広めようと日夜奮闘している元気なNPOを探し出して、応援していきます。

社会の理解を深めるため、全国初の盲ろう者の実態調査が行われました。盲ろう者と支援者たちの懸命な活動もあって、現在では行政施策にも結びつき、「盲ろう者通訳・介助派遣事業」「生活訓練事業（週三日実施）」「盲ろう者生活相談援助事業」「盲ろう者通訳・介助者養成事業」など各種の県委託事業を行うまでとなりました。

事務局を担う久郷慶子さんは「家に閉じこもりがちで表情のなかった盲ろう者が人と関わるなかでいきいきと変わっていく様子に、共に生きる喜びを感じる」、「県内に他にまだたくさんいる盲ろう者の方々にも、仲間とふれあう喜びをぜひ経験していただきたい」などを熱く語られます。新しい事務所の移転も間近のこと。盲ろう者の方自身によるコーヒーストップなど地域のサロンづくりもめざしたいとの夢を描くお話しに、心からエールを送りたい思いでいっぱいになりました。

(編集ボランティア 高山朋子)



●施設に通う盲ろう者と会のメンバーと介護ボランティアさん。



●事務局の久郷慶子さん



●県内の盲ろう児・者と家族の実態をまとめた冊子。

特定非営利活動法人しが盲ろう者友の会

理事長●岡本長忠 設立●2001年 会員●約100名
連絡先●近江八幡市浅小井町925番地
TEL・FAX・e-mail：移転中（移転後おうみネットHP版に掲載します）



●毎年5月14日に行われる賀茂御神社の「供御人行列」の様子。

(編集ボランティア 松田達也)

自分たちの足元にあるものを見つめ、先人たちに習い、自らが創る……。そんな湖族の郷のまちづくりは、住民主導の実践例として全国から注目を集めています。

湖族の郷実行委員会

郷長（さとおさ）●細川 源太郎 設立●1989年
会員●350名 連絡先●大津市本堅田3丁目8-1
TEL/FAX：077-572-0222

です。平成元年に準備会をはじめ平成五年には郷開きをむかえた湖族の郷ですが、その歩みは一貫して堅田の町を見つめなおすものでした。参加者一人一人が堅田の今昔をフィールドワークする「散歩ジウム」。堅田にちなんだ文学者として三島由紀夫、城山三郎、岡本一平の石碑建立。かつて京都下鴨神社へ琵琶湖の幸を献上したという献饌供御人も一時途絶えていたものを住民らの発意で行列という形で復活。その他にもコンサートなど、色々な世代の住民が楽しめる企画に取り組んできました。なかでも庄巻なのは堅田を題材にした演劇「郷人劇」。堅田の歴史に題をとり、参加したい住民ら自身が演じるというのですが、出たい人は拒まず、というだけに多いときは総勢四十五名が出演というところもあったそうです。



●小学生から上は96歳のお年寄りまでが参加する「堅田歴史絵巻」の演劇。



●キャンプで指導する風景。

今後の目標は、新しい企画にチャレンジすること。会の名前の由来である「Children+LOVER（子どもは恋人）」のとおり、子どものための、楽しい仲間達との活動を続けていきます。（事務局スタッフ 高峯 陽子）

CLOVER（クローバー）

リーダー：●聖場裕子 設立●2000年 メンバー●約10名
連絡先●虎姫町田108番地 TEL：0749-73-2273 FAX：0749-73-4167
e-mail：public-hall@town.torahime.shiga.jp

時にキャンプを体験した人がメンバーに入ってくれるようになりしました。また、クローバーと共に活動をおこなう中学生の組織「パープル」のメンバーが現在約三十人程いるので、卒業後はそのままクローバーに入ってほしいと期待を寄せています。合い言葉は「ONE FOR ALL FOR ONE（ひとりのみなのために、みんなはひとりのために）」。



●スタッフ左下から、リーダーの聖庭さん、藤井さん、川上さん。左上から長谷川さん、富永さん、野村さん。



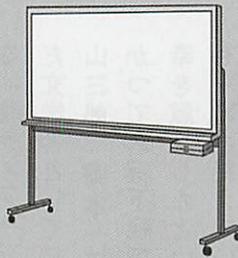
さい。①の会場レイアウトは、互いの顔が見えて、距離が離れすぎてないことがポイントです。口の字型や、椅子を丸く配置するなど議論が活発化します。

(次回は「いよいよ会議開催。のツボ」をお届けします)

●会議のお助けアイテム～その2

「ホワイトボード」

ホワイトボードは議論を整理したり、アイデアを生み出すのに有効です。言葉だけでは混乱したり行き詰まることがあります。それを、文字にしておくことで、忘れそうになっていたものを再認識することができますし、文字に刺激されアイデアが浮かんで来たりします。「本日の議題と到達目標」を書き出すことも効果的です。終了時間を書くことも刺激になります。ホワイトボードを有効活用しましょう。



▲大学と連携「大学サテライト・プラザ彦根」(アル・プラザ彦根等)



▲医療と連携「メディカル・フィットネスセンターウォーリス」(近江八幡店)

援センター」を設置。地域で生活する障害者や家族へのきめ細かいサポートを提供。和邇店・彦根銀座店では高齢者の助け合いネットワーク等を進める「NPO法人ナルク」も参画し、福祉のまちづくりの一翼を担っています。一方、近江八幡店では財団法人近江兄弟社との連携で介護予防と生活習慣病予防のための運動施設「メディカル・フィットネスセンターウォーリス」を開設。年齢を重ねても住み慣れた地域で健康づくりを進める県内初の取り組みです。

中心市街地の再生が叫ばれるなか、高齢者や障害者にやさしい駅前立地の良さを活かした店舗改革で、新しい顧客層の創出とともに地域活性化や地域貢献を果たす実践を広げ、地域ニーズに密着した総合拠点化を目指します。

おうみ未来塾

リレーエッセイ

つちだ しげお
土田 滋男さん

[7期生]

みんなの居場所をつくる会
NPO法人保育所あいアイランド



「会社をやめたら楽しい世界に出会った」

55歳で民間企業を退職しました。退職の1年程前に“働く女性の子育てを支援”しようと子育て支援団体「あいアイランド」を近江八幡駅近くで立ち上げました。いろいろ活動するなかで「専業主婦の子育てが危機にある」という実態を知り、未来塾で「絆：世代&地域」のメンバーと世代を超えた地域の関係のなかで子育て支援をやろうと取り組んできました。

そんななか新潟県で「地域の茶の間」を主宰する河田珪子さんを知り、子育てだけでなく高齢者も、子どもも、障害者など誰でもが自由に交流できる“居場所”こそが地域の子育てにつながり、専業主婦の子育てを一人ぼっちにさせない！、高齢者にも寂しい思いをさせない！。ことこそ大事だと確信したのです。河田さんに二度の講演をお願いするなかで、多くの賛同者が集まりました。そして「みんなの居場所をつくる会」を4月に立ち上げ『滋賀に100箇所のみんなの居場所をつくる』を目標に、新たな活動としてスタートしました。この8月5日には近江八幡市に県内第1号となる「みんなの居場所近江八幡：町家さろん間」をオープンすることが出来ました。場所は近江八幡市立資料館(新町2丁目)の東50mのところにあります。「みんなの居場所をつくる会」は会員を常に募集中です！(連絡は土田まで TEL.080-6173-0449 E-mail:thuchida@mail.goo.ne.jp)

NPOカフェ見聞録

誰もが気軽に立ち寄れる「居場所」や「サロン」をご紹介します

コープしが 福祉ネットワークセンター
『ゆめふうせん』



生活協同組合「コープしが」北大津配送センター内に併設された「福祉ネットワークセンターゆめふうせん」は、組合員だけではなく地域の人など誰もが気軽に立ち寄れる場所として開設されました。会議室や調理室などのスペースが充実しており、地域の集まりに利用できるようになっています。中でも子ども連れで気軽に立ち寄れる「ふらっとプレイス」が人気。積み木やおもちゃが用意された屋根のある公園のような場所で、友だち同士で話をしたり、子どもを安心して遊ばせることができます。高齢者の利用もあり、多世代交流の場として、これからますます充実していきそうです。

だれでも気軽に立ち寄れる
多世代交流の場をめざす

【問】 大津市真野5丁目33-25
TEL.0120-294-589 FAX.077-574-1570
開館時間：月～金 10：00～16：00
利用料：ささえあい協力金として、大人のみ100円
(飲み物付き)

孫の手ナビ

かゆい所に手が届く



いい会議をしよう！② ～まずは準備。のツボ～

今回はいよいよ会議準備編です。「準備8割」といいますが、会議も同じ。準備はとっても大事です。

では、どんな準備が、いい会議にするのでしょうか。準備チェックリストを表にまとめてみました。当たり前と思われるかもしれませんが、ここでしっかりと確認してみましょう。これをうまく動かせると、会議は実りあるものになります。

中でも特に①は大切です。何のために集まるのか分からないのでは参加意欲が薄れますし、当日なかなか本題に入らなかったり、人によって話がずれる、など効率の悪い会議になります。⑥は、重要な人が出席していないことで、いったん決まったことがあとで変更されてしまう、なんてことになりかねません。この人には、という人は事前に一声かけるという手間を惜しまないのがポイントです。また、会議に入る前に、メンバーのやる気を高める⑩も大切です。「今回は大事な会議だし、〇〇さんが来てくれないと始まらないしね（笑）」とか、「これ決めたら飲みに行こう！」など、参加意識を高める工夫を加えてみてくだ

そこが知りたい!

NPO運営術

Vol.8

準備チェックリスト

- ① 今回の会議の目的・議題・到達目標を事前にみんなで共有する。
※この会議はなんのために、どのようなことを、どこまで決定したいかを共有する。
- ② そもそも会議を開く必要がある案件かどうかをチェックする。
※報告、簡易な情報交換程度ならメールやFAXで済ますことも可能である。
- ③ ①を伝えたくて、参加者に事前に考えてきてほしいことがあれば伝えておく。
※事前に考えてきてもらうことで、当日はより深い会議をすることが可能になる。
- ④ 全体の所要時間と、議題ごとの時間配分は無理のない設定をする。
- ⑤ 議題が複数ある場合は優先順位を決める。
※多すぎる場合は、次回にまわすなどする。
- ⑥ この会議に必要な参加者をみきわめ、事前に声をかけ、参加してもらう。
- ⑦ 参加しやすい日・時間・場所を設定する。
- ⑧ 議論に必要な資料作成、印刷、物品の準備をする。
※議題が書かれたレジュメ（会議進行表）は作成しておく。
- ⑨ 役割分担をする。（進行役、書記、タイムキーパーなど）
※1人に負担が集中しないようにする。
- ⑩ 参加意識を高める雰囲気をつくる。
- ⑪ 議論しやすい会場づくりをする。

Sekenよし

企業の社会貢献や
市民・行政との
協働etc.をご紹介します

株式会社平和堂

TEL.0749-24-5019 FAX.0749-27-3008
http://www.heiwado.jp/

駅前店舗の空きスペースの有効活用による 地域の課題解決を目指し、産官学民の 学び、子育て、福祉、医療分野と連携し 駅前活性化と集客、社会貢献に挑戦。

1957年に（株）平和堂は「靴とかばんの店」として創業。県内に65店舗、近畿・中部地方に55店舗を展開する大手スーパー・チェーンに成長。2000年代から従来の駅前多層階店舗が低迷と言われるなか、「周辺の消費者に不便を与えてはならない」と閉店策は取らず再建に乗り出し、空きスペースを産官学民による地域住民の集いをコンセプトに有効活用でチャレンジを続けています。

2003年に大津駅前店にNPO法人ヒューマンサポート協会や滋賀大学と連携し「学びのフロア」を開設。職業訓練や起業支援、異業種交流のほか、社会人教育や不登校・



▲SC事業部マネージャーの渡辺了さん



▲福祉と連携「働き・暮らし応援センター」(彦根銀座店等2店)

子育て相談などを行っています。今年4月に彦根駅前に「大学サテライト・プラザ彦根」を開設。彦根市の滋賀大学・滋賀県立大学・聖泉大学と彦根商工会議所、彦根市と同社の6者が連携し、「学び」をキーワードに地域活性化の拠点づくりを目指しています。

子育て支援分野では、2005年に甲西中央店に湖南市ファミリーサポートセンターを開設し、仕事と育児が両立できる環境整備を進め、昨年、同市石部店に地元の市民グループ「NPO法人 鳩の街」と協働で子育て支援スペース「つどいの広場つばめ」を開設。保育士やボランティアが常駐し、子どもたちや親同士が交流できる場づくりに努めています。

福祉・医療分野では、2005年に近江八幡店と彦根銀座店に障害者の就労支援や生活相談を行う「働き・暮らし応

元気NPO にゅ〜す 宅配便

元気に活動しているNPOからの
活動レポートをお届けします。

GENKI NPO NEWS TAKUHAIBIN



NPO法人パソフレ

File 01

パソコン講座「パソフレ講座」 5月〜7月(計11回)



私たちNPO法人パソフレは、「パソコン初心者や未経験の人達に、パソコンの使い方・楽しみ方を気軽に身につけていただく手助けをする。それにより、趣味を掘げ、やり甲斐を見出す機会を得るような元気を持っていただき、共に励むこと

が出来る地域づくりに寄与すること」を目的とし会員数は29名で活動しております。この主旨で、基本講座と生活に密着した活用・応用講座を企画し、受講していただいた皆様の「できた!分かった!こんな事ができるの!」等の嬉しそうな顔を拝見し、私たちは成長への糧と活力をいただいております。

湖南省の方を中心に広報していますが、市外の方も受講していただいています。5〜7月では300名を超える方の参加をいただいています。今後更に、IT推進を進め「まちづくり」「まちおこし」につなげたいとの希望も持っています。

〒520-3201 湖南省下田1455(事務所)
TEL/FAX: 0748-75-0063
e-mail: smd1455@mail.goo.ne.jp
URL: http://www.pasofure.org/

しがらき狸学会

File 02

第2回全国たぬきフォーラムINしがらき 5月26日(土)〜27日(日)



しがらき狸学会では地域文化である「たぬき文化」の探求を目的に2001年4月より様々な活動を続けています。今回は信楽焼狸生誕100年と滋賀県立陶芸の森で開催中の特別展「ようこそ!たぬき御殿へ」に合わせて、5月26日「全国たぬきフォーラムinしがらき」を開催。全国からタヌキファンが一同集まり、しがらき狸学会の大平正道会長の司会でパネルディスカッションを行い、タヌキの魅力や日本人との関係、「金袋はなぜ大きく描かれるのか」「なぜ人をばかすのか」といった話が展開され、会場を訪れた人は興味深く聞き入った。また、桂勢朝さんによる狸落語や信楽狸の邦楽演奏などを楽しみました。翌日の27日には日本で初めての「全国たぬき人間コンテスト」も開き、6歳から85歳までの全国各地の「自称タヌキ人間」たちがタヌキ話を披露、自前の衣装で信楽焼のタヌキの置物に扮するなど、出場者が愉快的なタヌキパフォーマンスを競いました。

〒529-1851 甲賀市信楽町長野459-2
TEL: 0748-82-0073 FAX: 0748-82-0373
e-mail: my-ohira@iris.eonet.ne.jp
URL: http://www.ztv.ne.jp/ann/ootari/sigarakigakkai3.htm

滋賀子育てネットワーク

File 03

子育て支援者学習交流会 7月8日(日)

当会は1997年に設立、育児の主な担い手である母親を中心に、育児サークルやNPOの代表・支援に携わる方・社協や行政職員など様々なメンバーが集い同じテーブルに着いて「滋賀の子育てや子育て支援」を考える場となっています。この支援者学習交流会は2003年から年数回開催。今回はオブザーバーの大谷大学山下憲昭教授に「地域福祉計画の動向と子育て支援」というテーマでお話をいただきました。「行政職員と市民が横断的に何度も会議を重ね数年かけて作成した」という事例の紹介や、まちづくりの方向を公民で共有する大切さ、当事者団体として



私たちができること、などを学問的な視点でご講義いただきました。後半は質疑応答と意見交換。参加者の日々の活動を元にした意見が多く出て最後は時間が足りなくなるほど。次回は12月頃開催の予定、興味のある方はぜひご参加を!

〒524-8799 近江守山郵便局私書箱30号
TEL: 080-5302-9018 / 090-3925-2337
FAX: 0748-63-2970 e-mail: k-netstaff@yahoo.co.jp
URL: http://www.digimomw.com/kosodate/

NPO法人 蒲生野考現倶楽部

File 04

「水のかけ橋 日韓子ども交流体験」 7月27日(金)〜8月2日(木)

参加者は、滋賀と韓国の小・中・高校生45名と保護者・スタッフ30名の75名。韓国の「益唐環境市民の集い」と「蒲生野考現倶楽部」が交流しあって4年目になる今年は、琵琶湖(日本)と八堂湖(韓国)を見学し、水環境の保全について話し合いました。最初の3日間は、日本プログラム。琵琶湖汽船の協力を得て船で琵琶湖を周遊し、琵琶湖の現状と自然の豊かさについて学びました。今津から高島針江までのサイクリングや宇曾川リバーボート体験など、水を活かす知恵や力を合わすことの大事さも学びました。後半は、韓国プログラム。メンサンほたる自然学校や八堂湖(2400万人の飲料水となる人工湖)の上・下水道、研究等の施設、廃棄物を芸術作品に変えるリサイクルセンターなどを見学。お別れの日、別れを惜しむ子どもたちの姿に、貰い泣きしてしまいました。環境教育と体験活動、地域再生を行う「蒲生野考現倶楽部」では、来年も、子どもたちの日韓交流を続けていきたいと思ひます。



〒529-1610 蒲生郡日野町奥之池896
TEL: 090-1158-5352 FAX: 0748-52-1925
e-mail: haguuro@gamouno.com
URL: http://www.gamouno.com/

次号「元気NPOニュース宅配便」に掲載する活動レポートを募集します!(8・9・10月に開催する(した)活動が対象です。)ご希望の団体は淡海ネットワークセンターのホームページをご覧ください。[締切: 10/10]

伝言板に掲載できなかった情報は、センターのホームページに掲載しています。URL●<http://www.ohmi-net.com/>

市民活動情報

「ミニシアターまる」の オブジェクトシアター公演

▶ 9月26日(水) 13:30~15:00

★オブジェクトシアター「イェニーチクとマジエンコ」(演出:沢 則行)人形劇の本場チェコ共和国にて、のべ5か月滞在し創作・上演してきた作品。ちょっとちがう人形劇(オブジェクトシアター)をお楽しみください。

★立体紙芝居「赤すきんちゃん」
場所●栗東芸術文化会館さくらホール(JR栗東駅前 TEL:077-551-1455)
参加費●1,000円

☎ 滋賀県人形劇連絡会
TEL:077-582-0180
e-mail:osaki1@titan.ocn.ne.jp

第10回全国「脳卒中者の集い」滋賀大会 「さあ外へ 仲間とともに挑戦しよう!」

▶ 10月23日(火) 13:00~

プログラム●記念式典・記念講演/全国脳卒中者友の会連合会総会/懇親会・アトラクション/オブショナルツアー(10月24日) 滋賀・京都観光

場所●大津プリンスホテル「淡海」
参加費●大会:3,000円
懇親会:7,000円

☎ NPO法人滋賀県脳卒中者友の会「淡海の会」
TEL/FAX:077-511-5166(大津市におの浜4-2-33)
e-mail:oominokai-h10@wine.ocn.ne.jp
URL:<http://www16.ocn.ne.jp/oomi/index.html>

NPO会計事務サポートサイトのお知らせ

URL:<http://www.npoatpro.org/>
「NPO会計事務専門家ネットワーク」のホームページからNPO会計事務サポートサイトとしてリニューアルされています。これは、NPOの担当者が、会計事務の疑問点などの解決に役立つ情報を一箇所から取れるようにするためのもので、インターネットに詳しくないユーザーのために操作方法を電話で教える電話ナビゲーションも実施します。NPOへの会計事務の支援に利用してください。

みんなの居場所をつくる会 ボランティアスタッフ募集

「みんなの居場所」第1号を近江八幡市に開園することになりました。そこで、居場所の運営をお手伝いいただけるボランティアスタッフを募集しています。募集内容●「みんなの居場所近江八幡町家さる間」の運営スタッフ。可能な時間で、居場所においてみなさんとお話したりすることです。9月以降で日曜日以外で10時~16時でみんなの居場所に参加できる人も募集しています。その他、子どもと遊ぶ遊びや、ゲームしてくれる人なら、ポスターの製作してくれるボランティアも募集しています。

☎ みんなの居場所をつくる会 担当:土田
TEL:080-6173-0449
e-mail:thuchida@mail.goo.ne.jp

ボランティア竹編み スタッフ養成基礎講座

講座開催日●毎月第1・第3(日曜日)
14:00~16:00

期間●第1期 6か月間(10月開講)
参加料●受講料:3,000円/月(材料費・道具代)
制作品目●(1)コースター(2)四海波(花籠)(3)鍋敷(4)六つ目(お絞り入れ)(5)四つ目(菓子籠)
講師●清水善満(伝統工芸竹職人)
場所●「八幡酒蔵工房」近江八幡市屋町中7番地(酒遊館駐車場の奥)
募集人数●10名予定
(初心者大歓迎・男女年齢不問)

☎ 「八幡酒蔵工房」発起人 小関皆乎
TEL:080-3028-2028
e-mail:delfee@yahoo.co.jp

第3回もりやま市民活動屋台村 出展団体募集!

「もりやま市民活動屋台村」とは、市内を中心に活動している市民、ボランティア活動団体、NPO、共同作業所などが一堂に集まり、その成果や内容の発表、PRの場です。

今年度も平成19年11月23日から11月25日に「もりやま市民活動屋台村」を開催いたします。この催しは今年で第3回目。活動されている関係者が一堂に会するこの機会に日ごろの活動を広く知ってもらい、参加者の皆さんと交流してみませんか?たくさんのご参加をお待ちしています。

募集期間●9月1日(土)~10月15日(月)
開催日時:11月23日(金)~25日(日)
10:00~17:00(予定)
場所●守山市民交流センター(さんさん守山)1Fと駐車場

☎ 守山市民交流センター(さんさん守山)
〒524-0022 守山市守山2丁目16-45
TEL:077-583-2975
FAX:077-583-4654

しゃくなげ学校の活動に 参画しませんか? 会員・ボランティアスタッフの募集

地域のシンボルだった鎌掛小学校が廃校となり、校舎と敷地をNPO法人蒲生野考現倶楽部が日野町から借受「しゃくなげ学校」を平成15年に開校しました。「里山の知恵が地域をつくる」をコンセプトに里山研究と生活体験を展開しています。会員やボランティアスタッフを募集しています。会費●蒲生野考現倶楽部会員(大人)5,000円/年(ジュニア)1,000円/年(法人)一口10,000円/年
しゃくなげ学校会員(大人)1,000円/年(ジュニア)1,000円/年
ボランティアスタッフ:無料
※11/3(土) 稲刈り・収穫祭(単独参加料金:1,500円(昼食込み))参加者同時募集!詳しくはホームページをご覧ください。

☎ NPO法人蒲生野考現倶楽部
TEL:0748-53-9087(日野町鎌掛2362)
URL:<http://www.gamouno.com/>

市民協働ステップ・アップ・パート1 大津で協働を推進するために ~新しい地域コミュニティ研究会~

☆第5回/9月18日(火)「新たなコミュニティ像の検討」
☆第6回/10月23日(火)「新たなコミュニティ像とその形成の可能性」
※1~4回は終了。

協働を進めることが、大きな課題になっています。大津においても、協働の推進は大きな課題です。大津における協働の現状や問題点について検討し、大津で協働を推進していくうえでの課題や方向を明らかにする。市民が中心になって、そんな取り組みを進めたいと思います。

開催時間●各回19:00~21:30
場所●大津市市民活動センター会議室(明日都浜大津1階)

参加費●1回500円
※この事業は、おうみNPO活動基金の助成を受けて実施します。

☎ 大津市市民活動センター
TEL:077-527-8661
e-mail:otsu-shiminkatsudo@jupiter.ocn.ne.jp

NPO法人さかもとみんなの家 ボランティア大募集!

大津市坂本を拠点として里親家庭(里親ファミリーホーム)をスタートし、施設ではなく家庭で生活することの重要性を地域に広げたいと考えています。この活動に賛同いただけるボランティアを募集しています。

- ①家事援助ボランティア
里親家庭(里親ファミリーホーム)の炊事・洗濯・掃除等の補助。(里親が急な病気や怪我の際、また仕事等で子どもの雑務が困難になった時の補助)
- ②学習ボランティア
里親家庭(里親ファミリーホーム)の子どもたちの学習補助(子どもたちの勉強、また、遊び相手として)
- ③保育ボランティア
里親家庭(里親ファミリーホーム)の会議時等の保育(里親家庭は会議やシンポジウムに参加する際、常に子どもたちを連れて行かなくてはなりません。その際保育として子どもの相手をする)

☎ NPO法人さかもとみんなの家
☆昼間(8:30~17:30) TEL:077-525-9520(知的障害者授産施設瑞穂)
☆夜間(17:30~20:00) TEL/FAX:077-578-6804(事務局)

市民共同発電所全国フォーラム2007 in おおさか

▶ 9月22日(土) 23日(日)

「温暖化防止のために私も何かしたい…」そんな思いで始めた市民共同発電所は、滋賀県石部の太陽光「てんとうむし1号」から始まり、10年目の今年すでに160か所をこえました。共同のかたちも、市民と市民・市民と行政・市民と行政と事業者などさまざま、資金集めも出資・寄付・ファンドといろいろ。自然エネルギーも、太陽光・風力・木質バイオ・小水力・BDFと多彩です。市民共同発電所オーナーや自然エネルギーをすすめる仲間が集う「フォーラム2007」におさそいします。

プログラム●
☆1日目/〔開会全体会〕パネルディスカッション「自然エネルギーを活かしたまちづくりをめざして」~市民共同発電所全国調査の報告(分科会1)市民共同発電所のつくり方(分科会2)自然エネルギー利用あれこれ(懇親交流会)19:00~20:30

☆2日目/〔分科会3〕自治体・事業者と市民共同発電所のパートナーシップ〔分科会4〕市民共同発電所で元気なまち(まとめ全体会)構成劇「てんとうむし10年のあゆみ」/分科会報告/アッピール採択(ポスターセッション)(両日共通)

場所●大阪経済大学
参加費●一般2,000円、学生1,000円(※全体会、各分科会への参加費と予稿集の費用を含む)

※お申込みいただいた方に詳細資料をお送りします。

☎ 市民共同発電所全国フォーラム事務局
TEL:06-6910-6301(大阪市中央区内本町2丁目1-19-470)
e-mail:osaka@re-forum.org
URL:<http://blog.livedoor.jp/newwind/archives/50352179.html>

おうみ市民事業創出支援プロジェクト開始のお知らせ

本年度の新規事業としてNPOの自立的・持続的・発展的な事業を支援する「おうみ市民事業創出支援プロジェクト」を行います。この事業は専任のスタッフを2名配置し、研究者・企業家・コンサルタントなどから構成する市民事業プロデュース委員会がコーディネートします。主な事業は以下に示すような5つの事業を展開します。

◆市民事業相談会（仮称）

事業化を計画されている団体や経営について悩みを持っている団体に対して、専門家がアドバイスを行う「市民事業相談会」を開催します。参加団体を募集しています。

ます。アンケートへの回答をお願いします。

◆NPOの経営相談

本事業の開始に伴って、設立後の経営相談を当該事業の専任スタッフ（プロジェクトマネージャー）が行います。奮ってご相談ください。

◆市民事業可能性調査助成金

NPOの事業化を促進するにあたって、その可能性などを調査するための助成を行います。この助成金を活用して事業化を考えてみてください。

◆学習会等への講師派遣

理事や会員向けの学習会に当該事業の専任スタッフ（プロジェクトマネージャー）を派遣します。

◆実態調査

NPOの経営状況等を把握するために実態調査を実施します。この資料は助成金・相談会・経営相談に利用させていただきます

※詳しくは、まずは淡海ネットワークセンターまでお問い合わせ下さい。

共感とマーケットで地域課題を解決したい人のための！ 市民事業化連続講座

地域や社会の課題解決に取り組む市民活動が継続・発展していく方法として、コミュニティビジネスや、社会起業、事業型NPOといった、市場経済の仕組みの中で活動が展開される動きが注目されています。

センターでは、こうした「市民事業化」の実践的能力を養うため、日本で最初の社会起業コンサルティング会社「(有)フォレクトプラクティス」代表の田辺大（たなべゆたか）さんを専任講師に招き、7～9月に4回連続講座を開催しました。



受講された17名は、「若者の地域社会への参画」「空き民家を活用した過疎地域の活性化」「里山の不法投棄問題の対策」といった、自らの課題認識に基づき、事業企画づくりから、調査、プレゼンテーションまでの一連の流れをワークショップ等を交えながら学びました。

助成金情報

◇締切日:9月30日(日)

●日本万国博覧会記念基金助成金/独立行政法人
日本万国博覧会記念機構

<http://www.expo70.or.jp/>

●ヨネックススポーツ振興財団助成金/財団法人
ヨネックススポーツ振興財団

<http://www.yonex.co.jp/zaidan.html>

●第3回 日本イベント大賞/社団法人 日本イベント産業振興協会

<http://www.jace.or.jp/GrandPrix/GPindex.htm>

●未来を築く子育てプロジェクト/住友生命

<http://www.sumitomolife.co.jp/child/>

●第4回 精神障害者自立支援活動賞(リリー賞)/
アンチスティグマ研究会

http://www.lilly.co.jp/CACHE/index_index.cfm

◇締切日:10月1日(月)

●環境研究助成/(財)イオン環境財団

<http://www.aeon.info/ef/>

◇締切日:10月6日(土)

●第11回「地球倫理推進賞」/(社)倫理研究所

<http://www.rinri-jpn.or.jp/suishin/suishin-contest.htm>

◇締切日:10月10日(水)

●女性人権活動奨励賞(やより賞)/女性人権活動
奨励事業事務局

<http://www.wfphr.org/>

◇締切日:10月31日(水)

●第二回「観光資源活用トータルプラン」来て見て
良かった!また来るよ!/(財)高速道路交流推進財団

<http://www.highway.or.jp/>

●子ども文庫助成 子ども文庫功労賞/(財)伊藤
忠記念財団

<http://www.itc-zaidan.or.jp/index.shtml>

◇締切日:11月30日(金)

●近江八幡NPO活動促進事業/財団法人ハート
ランド推進財団

<http://www.hottv.ne.jp/heart/>

◇締切日:12月31日(月)

●日タイ修好120周年記念事業草の根助成/外務省
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/jpth120/join/3.html>

●講演会等託児室設置支援事業/子ども未来財団

<http://www.kodomomiraizaidan.or.jp/>

◇随時

●イーパーツ リユースPC寄贈プログラム/(特活)
イーパーツ

<http://www.eparts-jp.org/>

●介護基盤人材確保助成金及び介護雇用管理助成
金/(財)介護労働安定センター

<http://www.kaigo-center.or.jp/>

●障害者市民防災活動助成/(特活)ゆめ風基金

<http://homepage3.nifty.com/yumekaze/>

●笹川平和財団助成事業/(財)笹川平和財団

<http://www.spf.org/>

●高木仁三郎市民科学基金 調査研究助成・研修助
成/高木仁三郎市民科学基金

<http://www.takagifund.org/>

※詳細や最新情報は当センターホームページ「助
成金情報」をご覧ください。

61号の特集アンケート テーマ:「市民活動」

アンケートにご回答いただける方は、性別・年齢をご記入の上、ハガキ、ファックスまたは電子メールで淡海ネットワークセンターまでご送付ください。住所・氏名をご記入いただいた方には抽選で粗品をプレゼントいたします。

Q1.市民活動は地域や社会にとって大切だと思う？

a.思う b.思わない c.わからない

Q2.コミュニティビジネスや

社会起業という言葉を知っていますか？

a.はい b.いいえ

Q3.あなたが市民活動に関わるとしたら？

a.活動の参加 b.寄付 c.その他 d.わからない

▶アンケート締切:10月末日



新刊書案内

NPO!? なののため だれのため 「NPOとまちづくり」現場からの本音トーク

村岡兼幸+財団法人まちづくり市民財団 編著
定価:1680円(税込)

NPOの本質を見つめなおし、これからの方向性を探る一冊。本章だけでなくまえがきも読み応えあり。NPOの著名人と(財)まちづくり市民財団村岡兼幸の対談集です。市民活動をすすめる皆さまにぜひおすすめしたい一冊です!





第6回(2008年)おうみNPO活動基金助成事業の募集 施設整備を対象とする「まち普請事業助成」を新設

NPOの基盤強化を支援する「おうみNPO活動基金助成」の対象事業を募集しています。

今回は、施設整備を助成対象とする「まち普請事業助成」を新設し、以下の4つの助成区分できめ細かな支援を行います。

助成の区分	(A)			(B)
	自主事業助成	協働事業助成	NPO活動支援機能助成	まち普請事業助成(新規)
助成対象の事業	実現可能な先駆的、波及性を期待させる取り組みで、組織の基盤強化につながるもの	他の主体との協働により社会的課題を解決する取り組み ①協働事業可能性調査 ②協働事業実施	滋賀県内の地域において、市民活動・NPOを支える組織が支援機能を充実する取り組み	NPOの継続的な事業実施に必要な施設を整備する取り組みで、市民の多様な交流促進やまちなかの景観向上に役立つもの
助成限度額等	助成対象経費の75%以内で、50万円から300万円までの範囲内で決定	①の事業は定額10万円 ②の事業は、助成対象経費の75%以内で、50万円から200万円までの範囲内で決定	助成対象経費の95%以内で、30万円から200万円までの範囲内で決定	助成対象経費の90%以内で、50万円から600万円までの範囲内で決定
審査選定方法	一次審査(書類審査)を通過した申請は、公開プレゼンテーションを経て選定する。 ただし、協働事業助成の①協働事業可能性調査の申請は、一次審査のみで選定する。			

詳しくは、募集要項をご覧ください。募集要項は、ホームページに掲載しています。

■おうみNPO活動基金の特徴

(A)「自主事業助成、協働事業助成、NPO活動支援機能助成」では、直接経費に限らず間接経費(40%)も助成対象とし、活動の取り組み当初に80%の資金を支払い、助成期間中に、相談や活動アドバイザー派遣などの事業サポートを用意

■応募対象者/県内に活動拠点または事務所を有し、継続的な活動が期待されるNPO法人またはそれに準ずる団体

■助成期間/2008年1月から12月までの1年間

■応募締め切り

9月30日(日)17時 必着 (B)まち普請事業助成(新規)
10月14日(日)17時 必着 (A)自主事業助成、協働事業助成、NPO活動支援機能助成

■説明会/以下の日程で説明会を実施しますので、自由にご参加ください。

日	時	場 所
9月8日(土)	9:30~11:30	近江八幡市 県立男女共同参画センター
9月8日(土)	14:00~16:00	大津市 県立県民交流センター(ピアザ淡海)
9月9日(日)	13:00~16:00	「たかしま市民活動屋台村in朽木」会場内
9月13日(木)	17:30~19:30	米原市 米原公民館
9月17日(月・祝)	10:00~12:00	草津市 草津市立まちづくりセンター

おうみ市民事業可能性調査助成の募集

市民事業の立ち上げもしくは経営改善に資する経費を助成する団体を募集します。想定する助成対象事業は①事業計画作成のための調査、②先進事例調査、③社会性・事業性・ブランド戦略の検討にかかるコンサルティング依頼、④その他おうみ市民事業創出プロジェクトの目的と合致する事業

※詳細はホームページに掲載しています。

◆助成申請期間：9月1日(土)～10月14日(日)

市民活動団体のネットワーク “はじめの一歩”を応援します!

市民活動団体が、団体同士や活動をおこなう個人とのネットワークを組むことによる、より効果的な活動の展開を応援するため、企画提案を募集します!

■対象となる企画：(1)ネットワークの目的：社会的課題の解決に資するものであり、市町村域を越える広域において、継続的なネットワークを新たに形成することを目指すものであること。(2)応募者：滋賀県内に事務所を持つ市民活動団体。(3)ネットワークの対象：ネットワークの目的に関する活動をおこなう団体(市民活動団体、企業等)および個人。(4)実施方法：意見交換会、研修会、フォーラムなど、形式や回数は問いません。(5)実施時期：2007年11月～2008年3月に実施する企画。

■経費負担：1企画5万円を上限として、淡海ネットワークセンターが経費を負担します。

■募集締め切り：9月30日(日)(当日消印有効)

■応募方法：所定の企画提案書に必要事項を記入の上、淡海ネットワークセンターまでお持ちいただくか、郵送してください。企画提案書の様式はセンターに請求いただくか、またはホームページからダウンロードできます。

※詳しくは、淡海ネットワークセンターのホームページをご覧ください。

第5回おうみNPO活動基金 中間発表会のお知らせ

第5回おうみNPO活動基金の採択団体による中間発表会を開催します。それぞれの団体の取組状況、課題など、基金運営委員との意見交換を交えながら行います。これからの活動の参考に、また、第6回基金助成に応募を検討されている皆さんもぜひご参加ください。

◆日時：9月22日(土)午後

◆場所：ピアザ淡海 207会議室

おうみ未来塾活動発表会

地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、昨年、おうみ未来塾に入塾した第8期生は、現在、塾2年目のグループ研究活動に取り組んでいます。地域での実践を通じて学んできたこれまでの活動経過と、これからの取り組みについて発表します。また本年6月に入塾した第9期生は、これまでの4か月間に行った各地のフィールドワークを通じて学んだことを報告します。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から、地域課題の解決のためのヒントを見つけにお越しください。

◆日時：10月7日(日)午後

◆場所：ピアザ淡海 207会議室

「おうみNPO活動基金」へのご寄付ありがとうございました

レック商事株式会社さまより、「おうみNPO活動基金」にご寄付をいただきました。滋賀県内のNPO活動支援に大いに役立たせていただきます。誠にありがとうございました。

編集後記

まちづくりという大なり小なり行政が採配している話が多い中で湖族の郷はホントの意味で住民の発意から生まれている取り組みでした。中世堅田は自治都市の先駆であったといいますが、そうした歴史がいまに続いているのかも。

(編集ボランティア 松田)

淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団 淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com/ ■E-mail:office@ohmi-net.com

ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)

火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

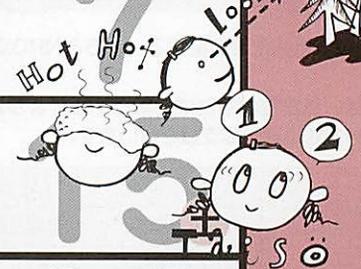
●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

・各地域振興局、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など

©無断転載を固くお断りします。

NPO 2007年 カレンダー 9月・10月・11月

★ 3月	クラシック音楽の日 4 火	5 水	6 木	7 金
警察相談の日 11 火	水路記念日 12 水	世界の法の日 13 木	14 金	15 土
19 水	空の日 地域安全の日 (毎月20日) 20 木	世界アルツハイマーデー 21 金	第5回おうみNPO活動基金 中間発表会 22 土	秋分の日 23 日
世界観光の日 27 木	パソコン記念日 28 金	29 土	おうみNPO活動基金 助成(B)応募締切 30 日	10月
都市景観の日 4 木	5 金	国際協力の日 6 土	おうみ未来塾活動発表会 7 日	8 月
12 金	13 土	おうみNPO活動基金 助成(A)応募締切 鉄道の日 おうみ市民事業可能性 調査助成応募締切 14 日	たすけあいの日 15 月	16 火
リサイクルの日 地域安全の日 (毎月20日) 20 土	21 日	★ 22 月	23 火	24 水
28 日	★ 29 月	30 火	ガス記念日 31 水	11月
ユネスコ憲章記念日 4 日	★ 5 月	お見合い記念日 6 火	7 水	いい歯の日 8 木
★ 12 月	13 火	14 水	七五三 15 木	国際寛容デー 16 金
世界のこどもの日 地域安全の日 (毎月20日) 20 火	インターネット記念日 21 水	いい夫婦の日 22 木	23 金	24 土
税関記念日 28 水	議会開設記念日 29 木	30 金		



★ネットワークセンター休館日